

## 医療系ベンチャーの育成へ

今月11日は初めての「山の日」の祝日となります。週末からのお盆休みとも連なり、故郷でお盆を迎える帰省客や国内外に出かける旅行客で駅や空港、道路など混雑が予想されます。

日本の裏側、ブラジルのリオデジャネイロでは夏季オリンピックが5日（現地時間）開幕し、競泳の萩野選手に続き、体操の男子団体や柔道の犬野選手が金メダルを獲得するなど、熱戦の様子が伝えられてきます。今大会は治安の悪さやジカ熱などの感染症への不安が指摘されていますが、日本選手団の活躍と同時に大会の無事終了を祈りたいと思います。また、ロシア陸上選手に端を発したドーピング問題、世界アンチドーピング機関（WADA）の調査チームは、ロシアが国家ぐるみでドーピングを隠蔽したとする報告書を公表し、ロシア選手団のリオ五輪への出場停止をIOCに勧告するなど、大きな社会問題となりました。4年後の東京オリンピック・パラリンピック、我が国の誇るクリーンなイメージを世界に発信する大会とするためにも、今からしっかり準備をしなければなりません。

さて、厚生労働省は7月29日、「医療のイノベーションを担うベンチャー企業の振興に関する懇談会」の報告書を公表しました。本懇談会は、知的集約型産業である医薬品産業が我が国の経済成長を担う重要産業として期待される一方、創薬を巡る国際競争は厳しさを増し、米国では医療系ベンチャーによる新薬開発が半数以上となっていること、医薬品以外の技術開発分野でもベンチャー企業が活躍していることから、医薬品・医療機器分野のベンチャーを育てる好循環を確立することを目指して、厚生労働大臣の私的諮問機関として設置され、昨年12月から10回にわたり議論が重ねられてきました。

報告書では、医療分野は世界的に巨大な成長市場であり、特に今後の成長が期待されるアジア市場において、我が国がリーダーシップポジションを取れる可能性があるとし、欧米に大きく出遅れている医療系ベンチャーの振興策を大胆かつ積極的に打ち出すことにより、医療イノベーションの起爆剤になるとしています。

そして、医療系ベンチャーの振興に向けて、「規制から育成へ」、「慎重からスピードへ」、「マクロからマイクロへ」の3つの原則のもと、

- ベンチャーの各成長段階のニーズに応じたレギュラトリーサイエンスに基づく早期の承認・保険収載につなげる制度整備
- 医療系ベンチャーの特性に応じた薬価での評価、及び既存の画期的加算では十分評価できないイノベーションに対する上乘せ評価
- 厚労省の主導で大手製薬・医療機器企業と医療系ベンチャーのマッチング

- 人材の交流と流動化を促進し、目利き人材を育成
- 知的財産保有企業を優遇する日本版「パテントボックス制度」の創設
- 厚労省に医療系ベンチャー振興政策の企画・実行を行う専任組織の早期設置など、医療系ベンチャーを育てる好循環（エコシステム）を確立することを提言しています。

日本のアカデミアによる優れたシーズの実用化・事業化に一刻でも早くつなげるためにも、着実な取り組みを望みたいと思います。